

新発田税務署長賞

知識がなかった私でも

新潟県立 中条高等学校 三年 横山 大志 さん

私は、日本の税金に関する知識があまりない。なので、この作文を書くのにも、少し時間がかかっている。しかし、私はまだ簡単なことしか調べていないが、税に関する関心、意欲がわいてきている。

まず、私が税に関することを、書くときに最初に思いついたのが、消費税だ。普段生活をすると、ほとんどの人が関わっている税金だと考える。物を買ったあと、レシートを見ると、消費税だけで「こんなに値段が上がるのか。」と思うことがある。しかし、テレビやニュースを見ていると、消費税が高くなることで、嬉しいと感じる人は少ないように見える。ではなぜ消費税を高くするのか、その使い道と共に調べることにした。調べてみると、現在の社会保障制度を次世代に引き継ぐためには、安定的な財源の確保が必要だからということがわかった。そして、使い道だ。国の消費税は、主に年金・医療・介護・少子化対策の費用に充てられていることを知れた。確かに、私も小中学生の頃先生から「国から無料で配布されているものだから、大切に扱いなさい。」と言われたことがある。「こういう紐付けがあったのか。」と私は興味があった。そして、簡単に調べたうえで、私は消費税を体感することは、多くてもそれが使われていると実感することは、少ないのではないかと考えた。実際、消費税率が高いほどサービスは充実していると思う。しかし、私のような税に関して知識が少ない人は、そのサービスを実感できる場面が少ないだけだと考えた。このことを調べたうえで、私に一つ疑問が生まれた。それは、税がなくなると社会はどうなるのか。デメリットは、たくさんあるだろう。自由に教育が受けられない。交通が整備されない。高額な医療費が、かかってしまう。少子高齢化は進むばかりだろう。では、消費税率を減らしてみてもどうだろう。もちろん今より物の物価が下がり消費が上昇する。会社の業績も向上するであろう。これ以外にもメリットはたくさんあるだろう。しかし、消費税率を減らせない背景もたくさんあると考える。私は、税金に関する意欲がわいた。

この作文を通じて、私にできることは、なにかと考えた。それは、税金に関して知識を深めること。そして、選挙に行くことだ。私は、来年大学へ進学し一人暮らしを始める。お金に関する知識を深めることは、必要不可欠だ。なので今のうちから知識をつけていきたい。そして、私は十八歳になった。選挙権を取得した。若者が選挙への参加率が低いことは知っていた。この作文を書く前は、私はその人たちと同じ気持ちだっただろう。しかし、この作文を書く機会を与えてもらったことで、社会の一員として、自分の意見をその一票に代えて投票所に向かおうと今は考えている。